

滋賀県文化審議会評価部会第6回会議 議事録概要

- 1 日 時 平成 25 年 7 月 18 日 (木) 13:00 ~ 15:00
- 2 場 所 滋賀県庁本館 4 A 会議室
- 3 出席者 委員 : 中川委員、富永委員、直田委員、河島委員
(4 名出席)
オブザーバー : 高梨課長 (近代美術館)
事務局 : 総合政策部次長、文化振興課長ほか
- 4 議題 (1) 平成 24 年度の滋賀県文化振興基本方針の実績について
(2) 平成 25 年度の個別事業の評価について
- 5 議事録概要 以下のとおり

次長挨拶 議題

(1) 平成 24 年度の滋賀県文化振興基本方針の実績について

委員 評価指標の実績について数字で見ているだけではイメージがわからない。ボランティア数にかかる指標であれば、どの年齢の方が参加されているかなど傾向的な事に加えて、形成的な事も分かるといいかと思う。自治体によっては、安上がりにボランティアを使っているところもあるが、生涯教育ということであれば数もどんどん増えていくのではないか。

委員 同じ設問でも県政世論調査と県政モニター調査で数値が異なることが気になる。設問の聞き方によって回答が違ったりしていると思うが、平成 21 年度とそれ以降のモニター参加者が全く同じ質問をされていると思わない方がいいのか。
また、「滋賀の文化を誇りとして感じている人の割合」について、平成 24 年度で数値が減っているのは憂うべき事態である。

委員 入場者数については人数だけでなく質も必要なので、アンケート等で満足度も一緒に分かるともう少し見えてくるのではないか。
芸術文化祭の若者参加者数が減少しているのが気になる。最近では俳句を詠む若者も増えているが、この文化祭自体が、そのような若者の受け皿になっていないのではないか。

部会長 世論調査と県政モニター調査では同じ質問でも数字にずれが出ることは考えられるが、これについては分析及びコメントが必要である。誤解を招かないよう背景などの記述は必要である。また、県政モニターはそれぞれの参加係数が高いということが想定されるので、このようなことも記述しておく必要がある。

芸術鑑賞した小中学生が着実に増えてきているということで、こういうことは多いに評価したい。

芸術文化祭の若者の参加者数が24年度に57人に減っているのです、この理由はしっかり分析して欲しい。また芸術文化祭において、若者がもっともっと来やすいような政策的なアクションをおこしているように感じられないので、少し危惧を感じる。

アートマネジメント研修の受講者数について、文化振興事業団が行っている地域文化コーディネーター&文化ボランティアコーディネーター養成講座を数値の中に入れるのであれば、この講座に対して県の立場を明確にする必要があるのではないか。この講座の継続性に対して県が政策的に何か担保をつけていくのであれば、数値を入れても良いと思う。

事務局 設問の表現が変わったのは、県政世論調査は県の全体の基本計画に基づいて聞いているという前提があり、その関係かと思う。経年変化をみる為に設問の表現は変えないでおこうという思いは皆持っているが、少しずつ変わってきているというのが現状。文化に限らず、他の分野も同じである。

部会長 調査では同じ質問をずっと使うというのを通してほしい。これは最初に確認をしたことである。

委員 ものすごく短期的な結果でしかないものや、供給をふやせば数値が増えるというものなど色々あるので、経年でみてしまうと、なぜ減ったのか、なぜこんなに上がっているのかというふうにみてしまうが、これは色々な意味でミスリーディングであり、気をつけていかないといけない。多ければ多いほどいいものばかりではない。

部会長 次のステップにどう移っていったらいいのかという事に使えるように、その数字を分析する方向で考えるのがよい。どんどんよくなる評価指標ということで、項目は変えずに、分析を変えていくということによろしいか。

文化ボランティアの数が増えることは良いことだが、下請けに使ってはいけない。ボランティアは生涯学習における自己決定権を発揮していこうという実践の場なので、アクティビティの高い、参画や共同という事が実践できるような太いパイプを結び、ボランティアを育成できるような発展をしてほしい。社会とアートをつなぐ役割としてアートマネジメント研修は必要である。

(2) 平成25年度の個別事業の評価について

委員 文化で滋賀を元気に！推進事業は5事業あるが、このうちどれかを観に行くのか。

事務局 全部観に行ってくださいとは考えておりませんので、そのうちのいくつかを視察していただきたい。

評価シートについてはよかった点と改善が必要な点とか、大まかに書いて頂ければ

と考えている。

事務局 去年評価して頂いた4事業については、今後どうするか、どうしたかということ、また委員の先生方へ示したいと思っている。

部会長 去年の視察で、各施設の専門家のレベルの高さには、太鼓番を押せるという印象を持った。内容的にも質が高く優れている。

だが、それをマーケティングベースにのせて、集客につなぐというジョイントがぬけている。その所をうめるのが政策のコツではないか。県ももう一歩踏み出さないといけないし、施設側ももう少し商売人にならないといけない。そういったことを指摘する、あるいは評価するのが、我々の役割なのかなというのが去年の印象だった。

以上